

写真展

「岡本央が見てきた中国」

(二〇一五年三月二十九日～四月二十六日)

主催：岡本央展実行委員会／共催：NPO法人古川学人

長年中国各地の子どもや人々を撮り続けてきた、大崎市岩出山出身のカメラマン・岡本央(さなか)氏の写真展を開催しました。

中国の子どもたちを写した作品を中心に展示した他、記

念館所蔵史料から中国の革命家・黄興らが吉野に贈った書額を展示しました。

本企画展は、長らく緊張が続いている日中両国関係のあり方について考える機会を、という趣旨で企画されました。

吉野作造もまた、生涯日中の相互理解に尽力しました。

日中両国の相互理解は吉野の時代から今に続く課題です。岡本氏のレンズに写し出された、無邪気でたくましく、どこか懐かしい子どもたちの笑顔は、相互理解は決して難しくはないという不思議な説得力を持っていました。

来場者数：六八三名
※二〇一五―一六年度事業



大崎市古川出身の造形作家である姉齒公也氏。

あらかじめ発泡スチロールを削って形を整えたおきあがりこぼしに和紙を貼り、絵の具で自由に描いてもらいました。参加してくれた子供たちは、色鮮やかな配色で、猫やアニメキャラクターなど自由に思い思いのオリジナル「おきあがりこぼし」を作っていました。

参加者数：三九名

ミニ企画展 「オライの宝展」

二〇一六年一月一〇日～三月三二日

大崎にお住まいの市民の皆様がお持ちの歴史資料コレクションにスポットを当てるといふ、当館としては初めての市民参加型の企画展です。今



回は大崎市田尻にお住まいの齋藤肇さんのコレクションを展示しました。齋藤さんは市内で農業を

そのコレクションの中から、種田山頭火、与謝野晶子などの色紙や短冊、斎藤茂吉の葉書など文学者関係、それに山県有朋や大槻磐溪の揮毫など政治家・思想家の関係史料を中心に計二五点を展示しました。純粋な興味で収集した個人コレクションには、博物館や美術館のテーマ展とはまた違った面白さがあります。吉野作造たちの明治文化研究もまた、元々プロの歴史学者ではない面々が興味で始めたものでした。

特に近代史の歴史資料は、蔵の中から古書店、家のタンスや戸棚まで、どこにあるか分からないものです。そんな歴史資料を自分で探し、触れ集める楽しさを感じてもらうことも、本企画展のテーマでした。

来場者数：二、一三六名

《NPO法人古川学人事業》

元気発信「まちカル」事業

「街(タウン)・文化(カルチャー)・元気(パワー)」をテーマに、様々な企画を通じて「人」と「人」との「繋がり」を深め、人的ネットワークの構築を中心として地域を活性化する事業。

まちなかカルチャースクール講演会

「再生する聖地―チベットの文化圏の内と外」

講師：菊谷 竜太氏(東北大学専門研究員)
(二〇一五年三月二日)



陶器などを中心に多様なグッズを取り扱う大崎市の雑貨店「クラフト木村」では、地域文化振興のため店内で定期的にさまざまなワークショップや学習会を開催しています。この日はNPO法人古川学人との共催で、チベット仏教の専門家である菊谷氏を講師に招き、講演会を開催しました。

わっくわく教室

九月二七日

菊谷氏は臨終や葬送の儀礼にみられるチベット仏教の死生観に触れながら、グローバル化する世界の中で異文化を理解することの意義を説きました。

参加者数：二〇名
※二〇一五年度事業



何度倒しても起き上がる「おきあがりこぼし」作り教室を当館にて開催しました。講師は